



# 閉塞性動脈硬化症について ②

閉塞性動脈硬化症とは、主に足の血管に起こる動脈硬化です。初期の症状は足の痛みやしびれなどですが、重症化する  
と足の切断となることもある怖い病気です。また、この病気の認知度は心不全や心筋梗塞などと比べると低く、足の症状  
を年齢や体力低下による影響と思われる方も多いため注意が必要です。

今回は閉塞性動脈硬化症について総合大雄会病院循環器内科の谷信彦が解説します。

## 第二回 閉塞性動脈硬化症の検査、診断について

下肢の動脈の血流障害が疑われる場合、主に以下の検査を行い、診断をします。

**触診**▼動脈の拍動をチェックします。左右の足の付け根、膝の裏、足先の動脈を指で触って、脈が触れるか、強さ、左右の差などをみます。その際に足が冷たくないか、足先に傷がないかなども確認します。

**ABI検査(安静時・負荷時)**▼両腕と両足首の血圧を同時測定する血圧計を使用し、左右の腕、足の血圧を4点同時に測定する検査です。足首の血圧と腕の血圧の比(ABI)が0.9以下である場合、閉塞性動脈硬化症が疑われます。病気であっても安静時のABIは正常のこともあり、負荷をかけた上で測定することもあります。

**超音波(エコー)検査**▼超音波を用いて足の動脈の狭窄(狭くなること)や血流を測

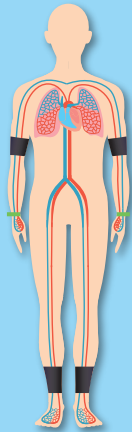
定する検査です。足の血管はエコーで観察しやすいため、よく用いられます。

**造影CT**▼造影剤という薬剤を用いてCTを撮影し、足の血管を評価する検査です。造影剤の使用や放射線被ばくへの注意は必要ですが、正確できれいな画像が得られます。ただし、石灰化という血管の変化が著しい場合は評価が困難な場合があります。

**血管造影検査(カテーテル検査)**▼カテーテルという医療用の細い管を用いて血管内に造影剤を注入し、X線撮影を行い足の血管を評価します。血管の狭窄の程度や場所が最も詳しくわかります。カテーテルは検査だけでなく、治療に用いることもあります。

今回は閉塞性動脈硬化症の治療について解説します。ご期待ください。

両手足の血圧を測り比較します

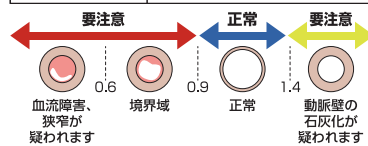


### ABI検査

$$\text{ABI検査} = \frac{\text{足の血圧}}{\text{手の血圧}}$$

(左右のうち高い方)

1.41≧ABI	足首の血圧高め(石灰化の可能性)
1.0≦ABI≦1.4	正常範囲
0.91≦ABI≦0.99	正常範囲だが、境界領域
0.0≦ABI≦0.9	末梢動脈疾患の疑い



監修  
循環器内科診療副部長 兼  
救命救急センター内科部門診療部長

たに のぶひこ  
**谷 信彦** 医師

(主な資格)

- ・日本内科学会 総合内科専門医
- ・日本循環器学会 循環器専門医